

# グローバルヘルスガバナンス ～全ての人に関わる国際保健～

---

WHO健康開発総合研究センター

茅野龍馬

# グローバル化と人・モノの動き

# Globalization – borderless and interdependent world



# グローバル化と感染症

# New Influenza A (H1N1), Number of laboratory confirmed cases and deaths as reported to WHO

Status as of 17 May 2009  
8:00 GMT



The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

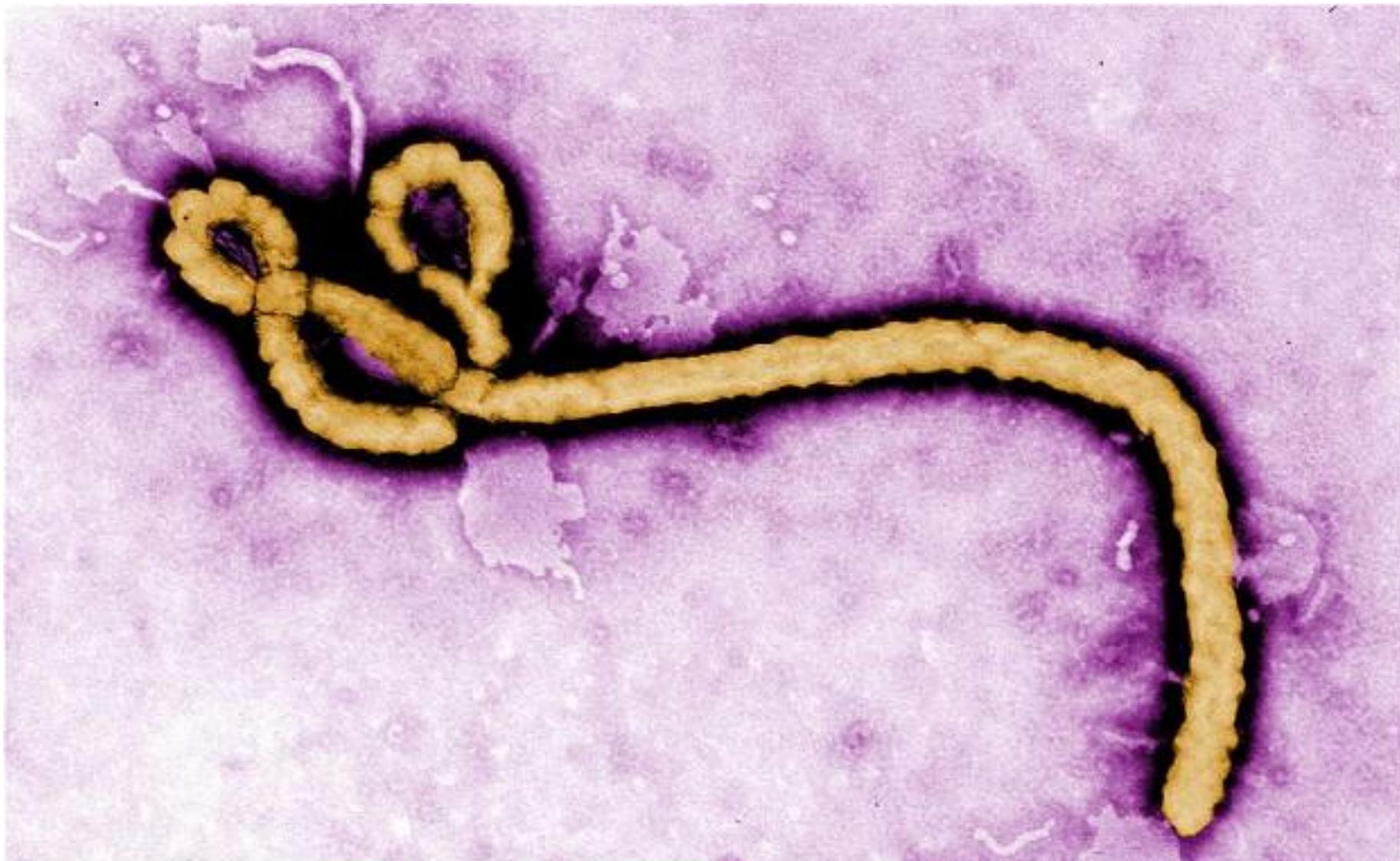
Data Source: World Health Organization  
Map Production: Public Health Information  
and Geographic Information Systems (GIS)  
World Health Organization

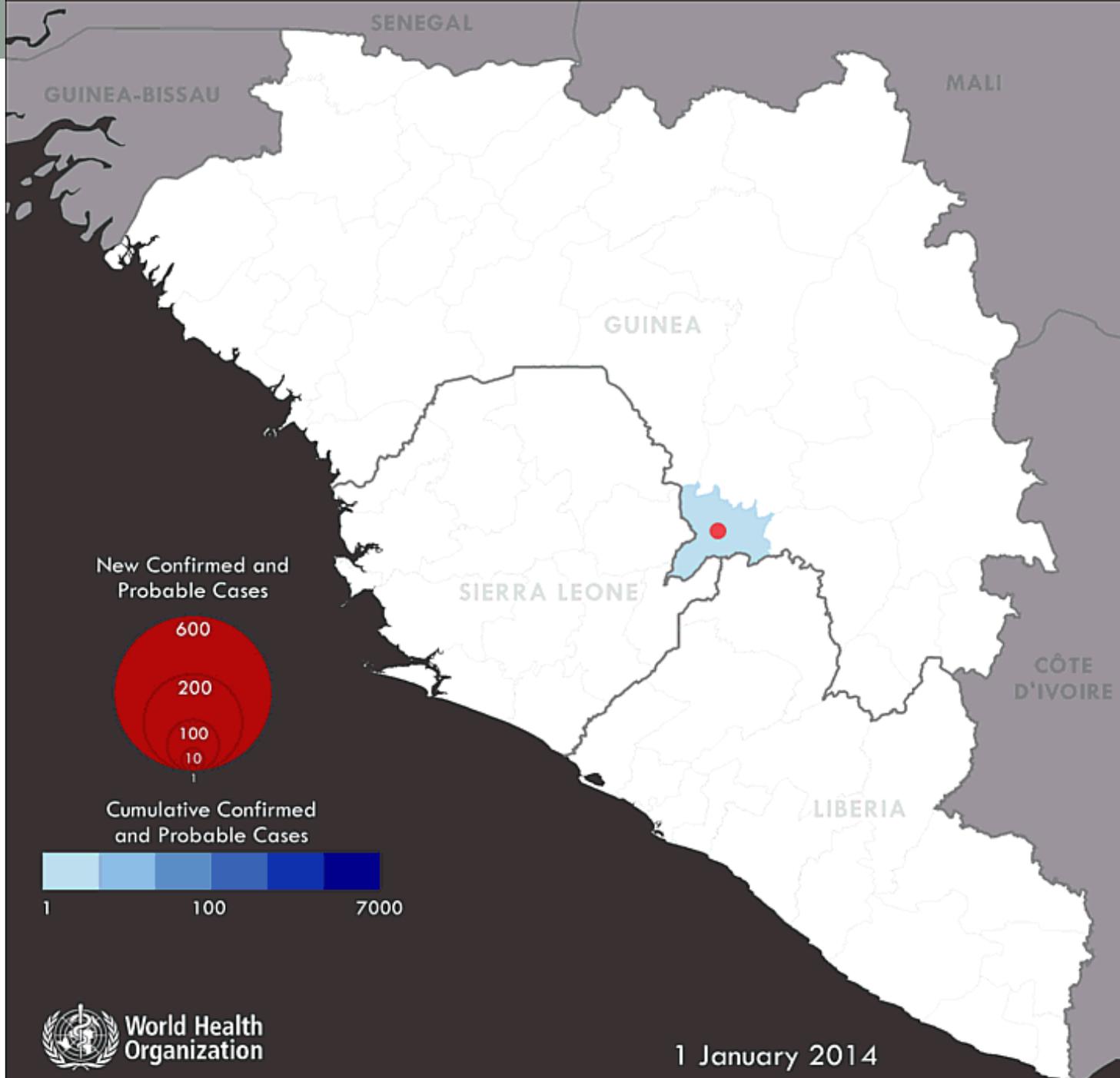


© WHO 2009. All rights reserved

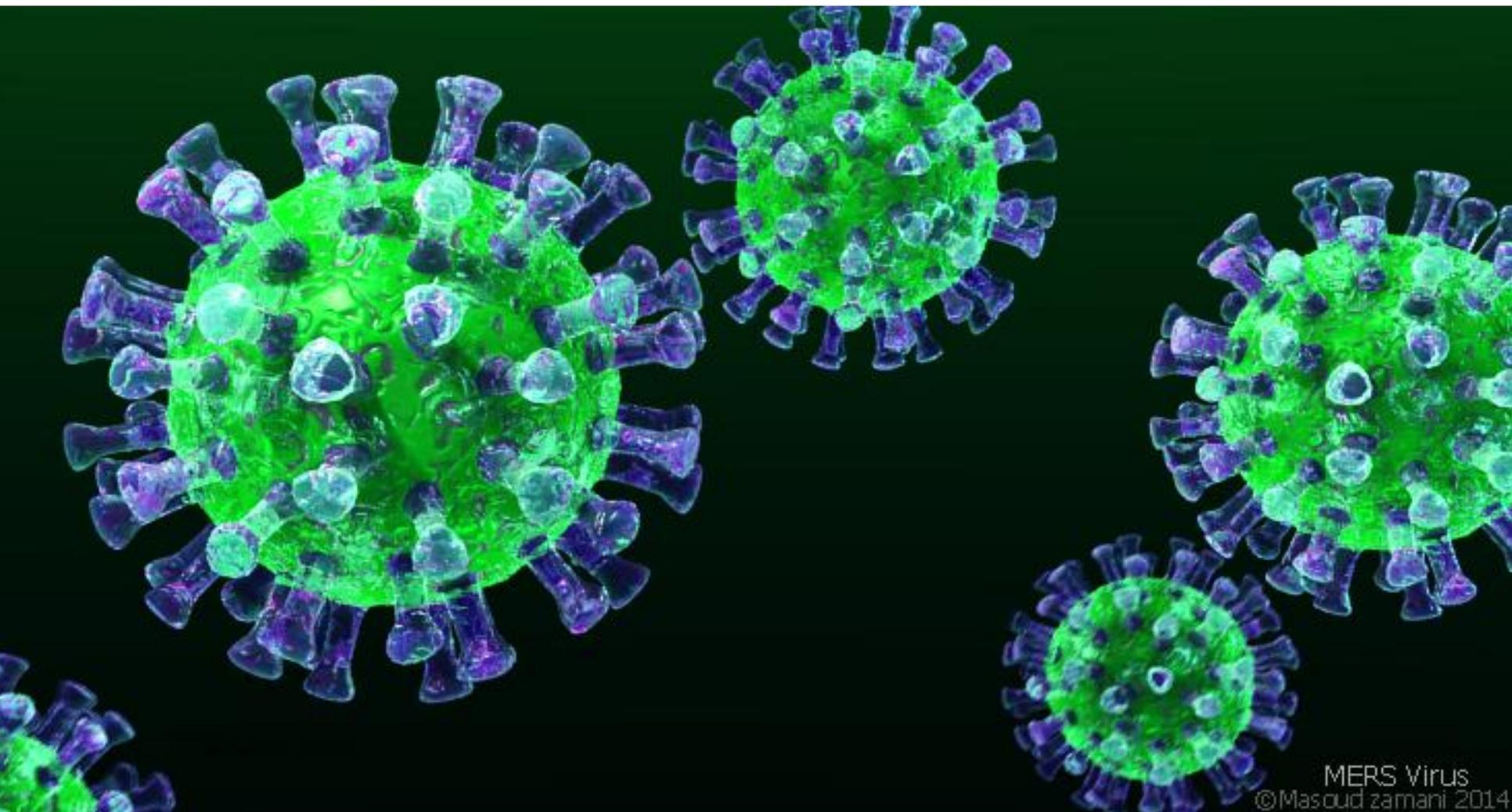
Map produced: 17 May 2009 8:00 GMT

# エボラ出血熱

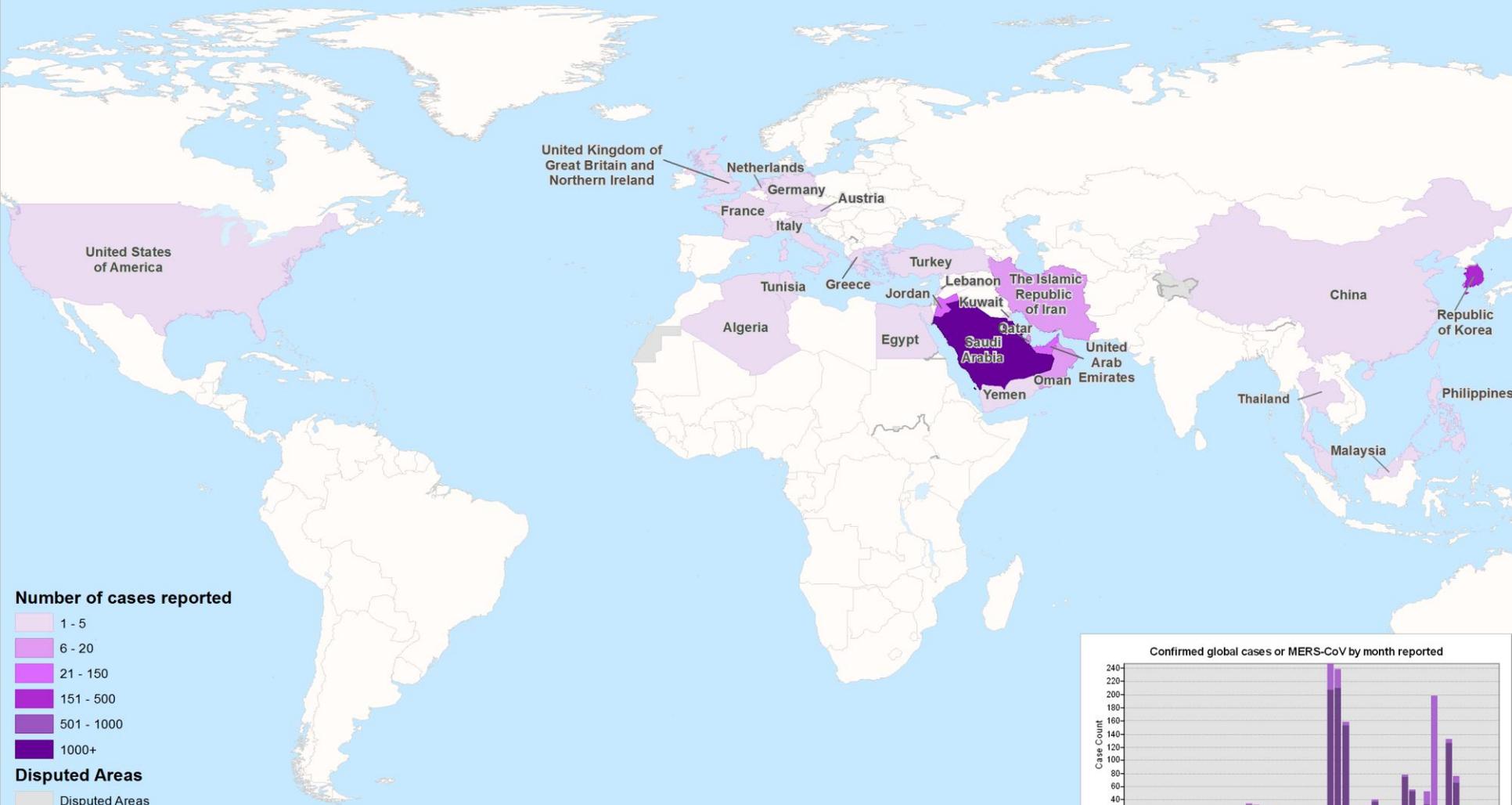




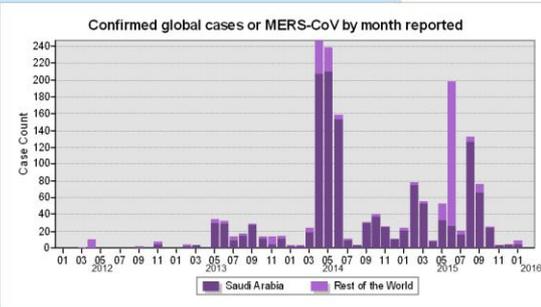
# 中東呼吸器症候群 (MERS)



# CONFIRMED GLOBAL CASES OF MERS-COV 2012 - 2016



Total number of reported cases: 1636



Map Scale (A3): 1:1,109,175,783  
 1 cm = 11,092 km  
 Coordinate System: GCS WGS 1984  
 Datum: WGS 1984  
 Units: Degree

The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

Data Source: World Health Organization  
 © WHO 2014. All rights reserved.  
 Map date: 12/02/2016



# 小頭症・神経疾患の集団発生とジカ熱

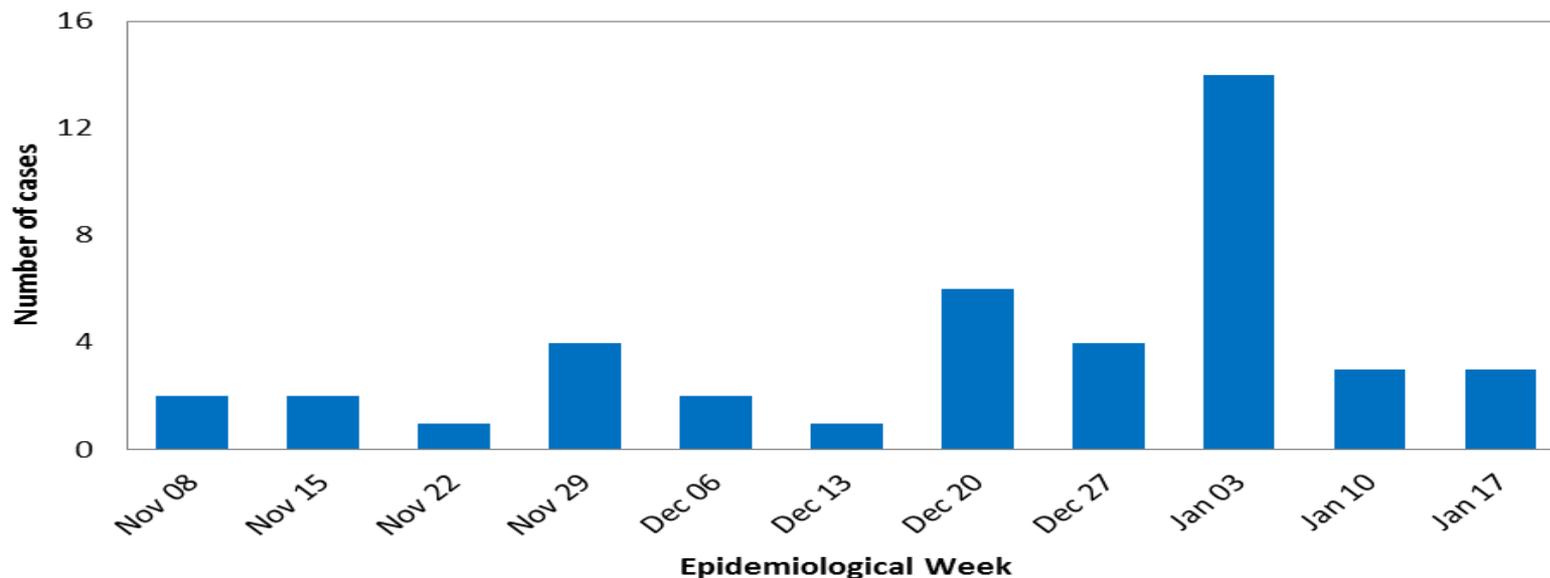


# ギランバレー症候群の疫学情報

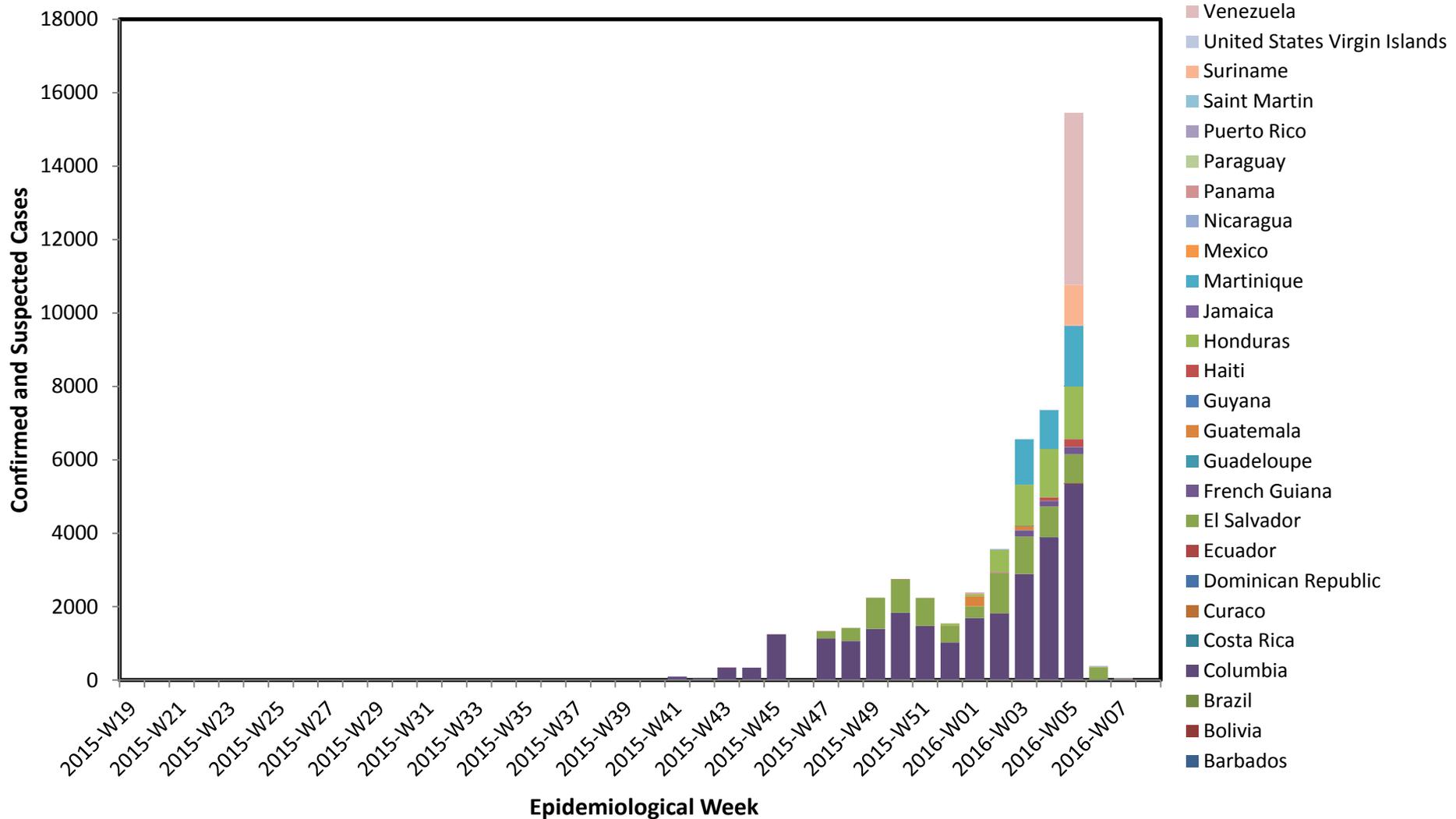
## ギランバレー症候群

- 麻痺、筋力低下を認める神経疾患。稀に見られ、自己免疫疾患といわれる。
- ブラジル、コロンビア、エルサルバドル、スリナム、ベネズエラ、仏領ポリネシアで増加

## コロンビアにおける症例



# 南北アメリカにおけるジカ熱の確定及び疑い症例 2015-2016



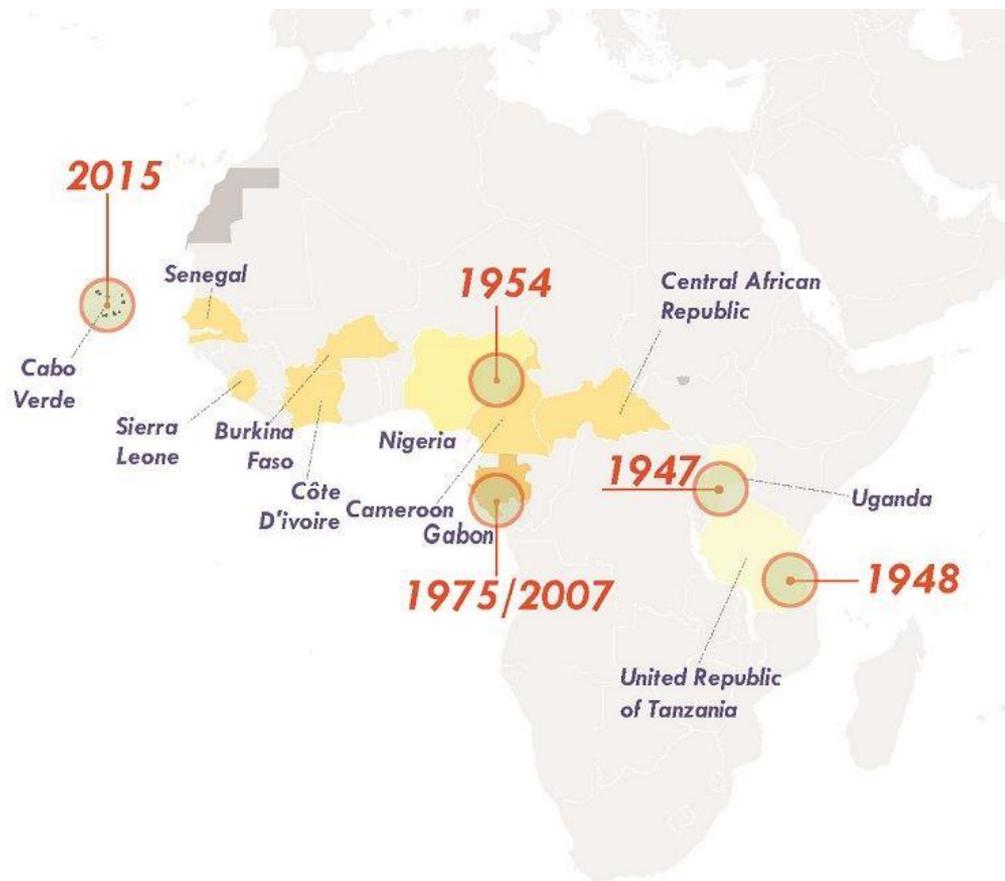
**Cumulative cases as of 12 Feb:**  
**Confirmed: 2063**  
**Suspected: 118,208**  
**Total cases: 120,271**

Please note: There are an additional 236 confirmed and 70,611 suspected cases in Brazil which are not shown in this graph

Source: [http://ais.paho.org/hiph/viz/ed\\_zika\\_epicurve.asp](http://ais.paho.org/hiph/viz/ed_zika_epicurve.asp)

# ジカ熱(ジカウイルス)の歴史

- 1947年 ウガンダのジカ森林のアカゲザルより発見
- 1948年 ジカ森林のヤブカよりウイルスが同定
- 1952年 初のヒト症例がウガンダ、タンザニアで報告



# ジカ熱(ジカウイルス)の歴史



# ジカ熱(ジカウイルス)の歴史



# ジカ熱(ジカウイルス)の歴史

- 2015年12月1日 PAHO、神経疾患・先天奇形との関連示唆。
- 12月22日 2975例の小頭症疑い報告。
- 2016年1月5日 初の子宮内感染報告。
- 1月12日 CDCより小頭症とジカウイルスの強い関連示唆。
- 1月21日 3893例の小頭症疑い(49例死亡)報告。6例検出。
- 1月22日 1708例ギランバレー症候群報告。関連が示唆。
- 2月1日 WHOがPHEICを宣言。
- 2月2日 アメリカで性感染例報告。
- 2月4日 ブラジルで輸血による感染報告。
- この間、20カ国以上で数万例の感染報告。

# WHOの対策

- 当緊急事態に対するグローバル戦略対応枠組み及び共同実施計画の立ち上げ。
- 総予算は約60億円の計画。パートナー機関と協働し、人材、資源を活用。迅速な調査研究と診断・治療・ワクチンの開発、情報共有とリスクコミュニケーション、予防と治療を進める。
- 様々な生産物迅速評価する部局を設置(エボラに習う)。

# 当緊急事態への対策戦略

	媒介蚊の存在 ジカウイルス 小頭症および 神経疾患	媒介蚊の存在 ジカウイルス	媒介蚊の存在	その他の国
調査、検査、リスクコミュニケーション、コミュニティとの協力	✓	✓	✓	✓
媒介蚊のコントロールと自己防衛	✓	✓	✓	
小頭症、先天奇形、神経疾患のマネジメント	✓	✓		
ジカウイルスと奇形・神経疾患の関係性に関する公衆衛生学的研究	✓			

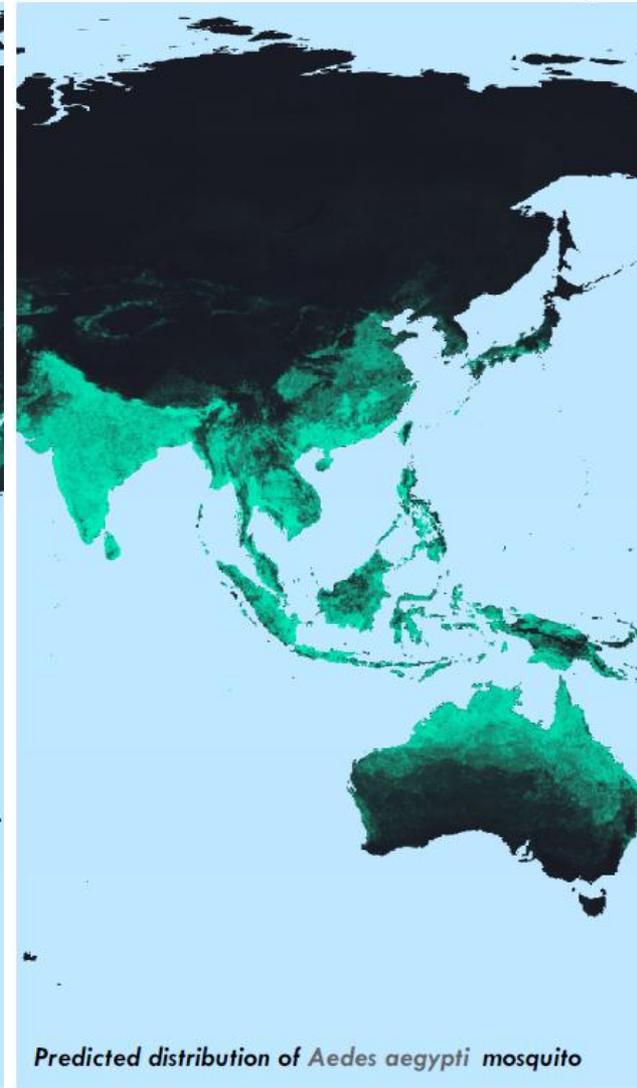
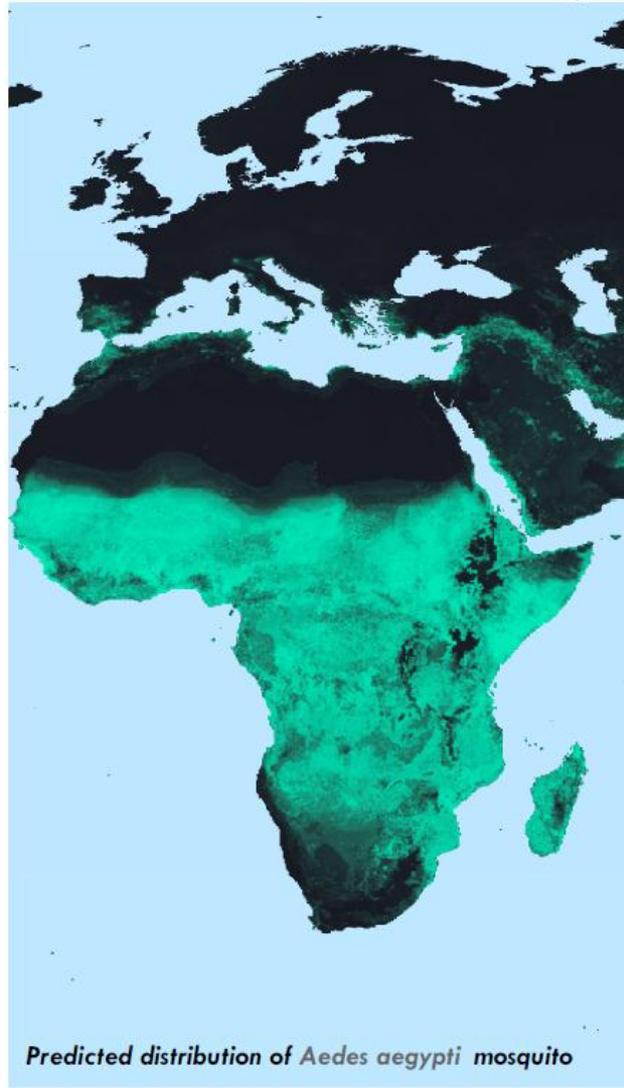
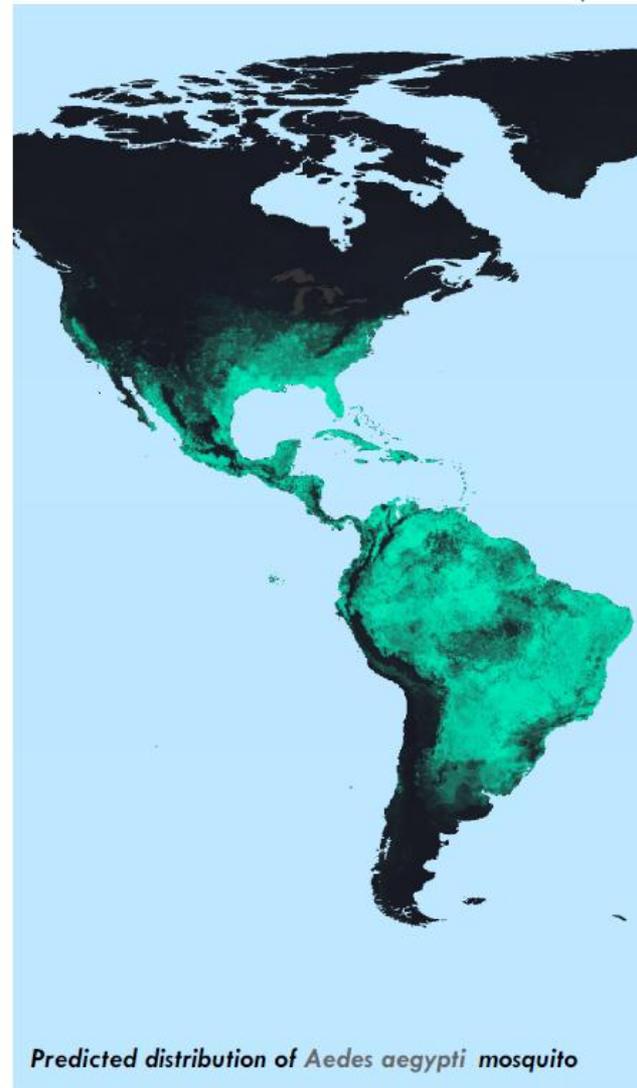
# 現時点でわかっていること、いないこと

- ジカウイルスはヤブカによって伝染する。性感染も示唆。
  - 症状は一般的に軽症。微熱、発疹、関節痛など。
  - 症状は2～7日続く。
  - 最も有効な予防法は、蚊から身を守ること。
  - アフリカ、アメリカ、アジア、太平洋地域に拡大している。
  - 有効なワクチン、治療法はまだない。
  - 診断は血液または体液からのRNA検出のみ。
- 
- ワクチンと小頭症の関係についてはエビデンスがない。
  - 殺虫剤と小頭症の関係についてはエビデンスがない。
  - ウイルスの変異と小頭症の関係についてはエビデンスがない。

# 開発中、進行中のこと

- 革新的な蚊対策：遺伝子操作、細菌感染モデルなど
- 簡便かつ迅速な診断法：血清検査、核酸検査が開発中。
- ワクチン開発：2候補（DNA(アメリカ), 不活化(インド))
- そのための動物モデル、試薬の開発
- 予防薬の開発：特に妊婦の感染を防ぐもの
  
- 商業的診断法の評価付け(ブラジル)

# ジカウイルス媒介蚊の分布予測 (ネッタイシマカ)

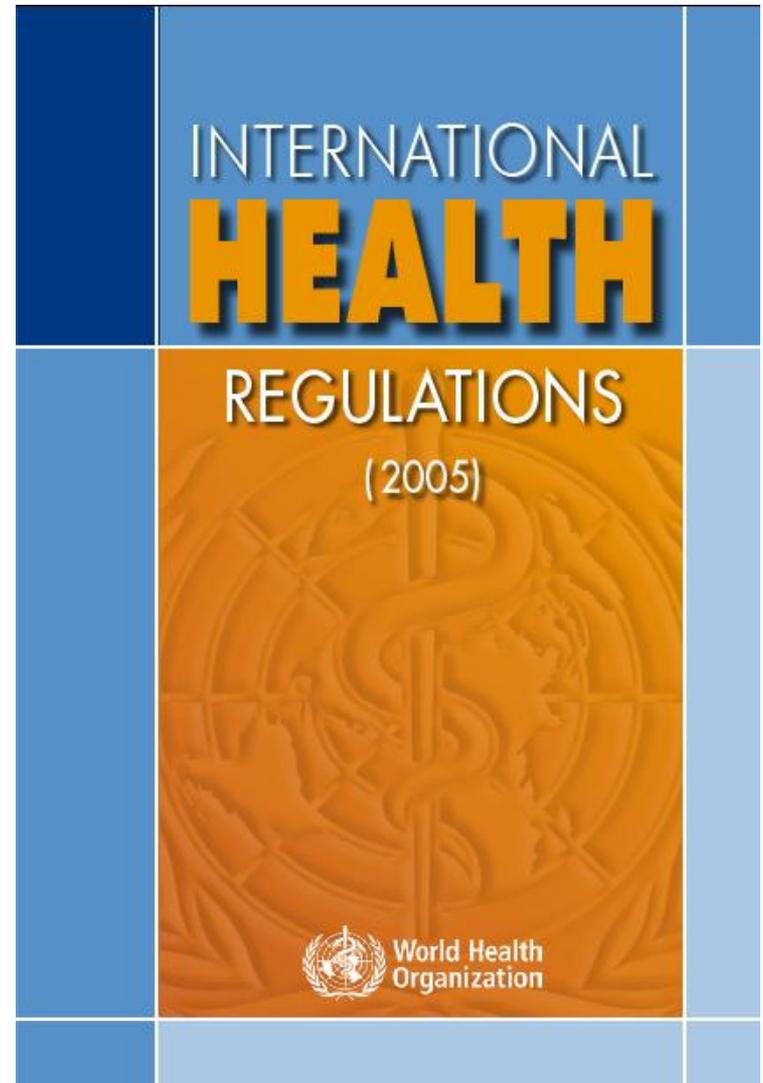


# グローバルヘルスガバナンス

- 国家の枠組みを超えた保健課題は、一国の政府のみでは対応しきれない。多様な機関・団体が関わる。
- グローバルからコミュニティにいたる各層においてコーディネーションが必要。
- コミュニティを出発点に、地方、中央、地域、グローバルなレベルでの一貫した政策対応を可能とする仕組みが必要。
- 国家、多国間組織、民間が連携し、国際社会共通の課題を解決していく体制の確立が必要。

# 国際保健規則 (IHR)

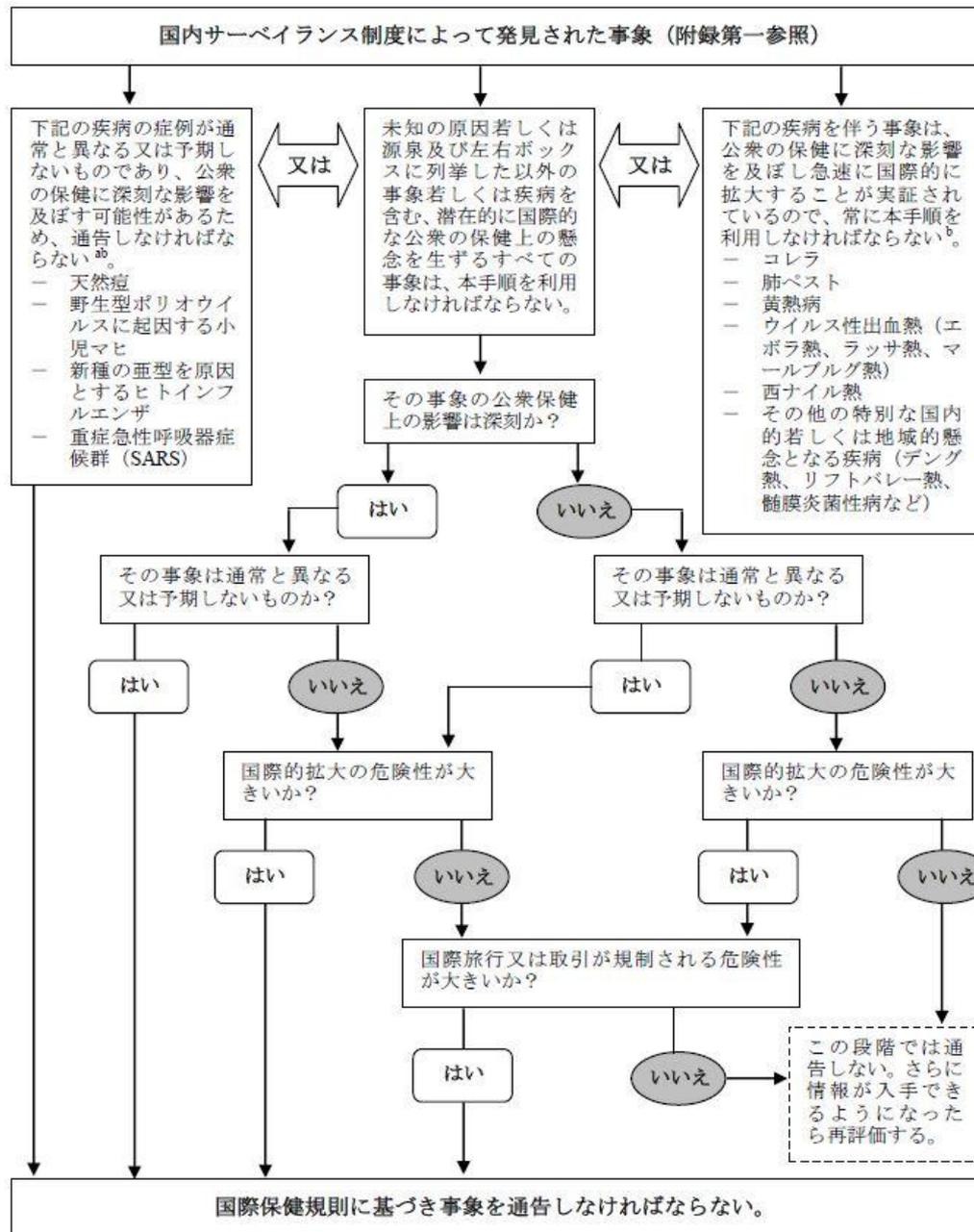
- 国際交通に与える影響を最小限に抑えつつ、疾病の国際的伝播を最大限防止するための国際規約。
- 加盟国は規則に従う義務をもつ。



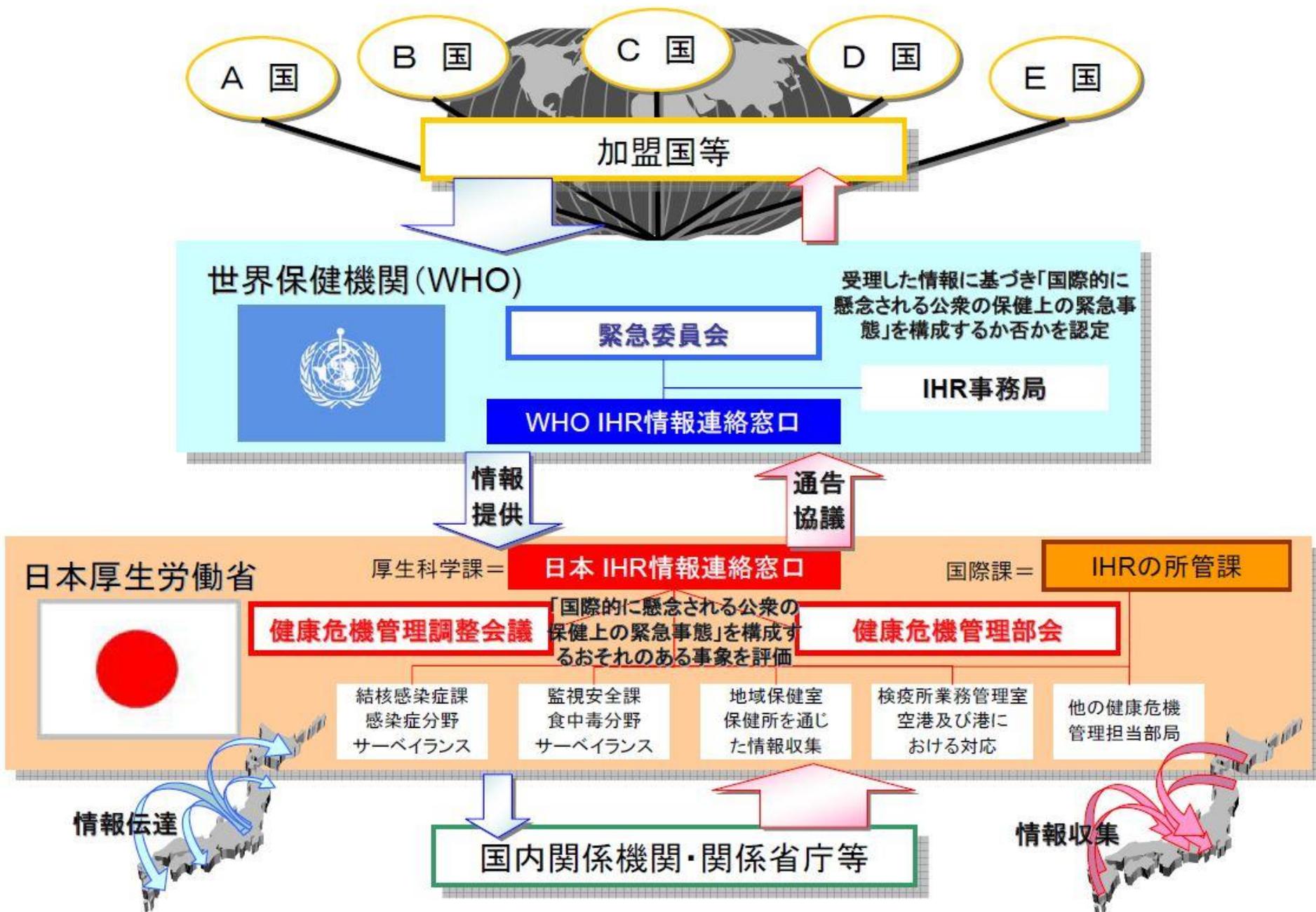
# 国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態 (PHEIC)

- 疾病の国際的拡大により、他国の公衆衛生に危険をもたらすと認められる事態。潜在的に国際的対策の調整が必要な事態。
  - 1. 重大な健康被害を起こす危険性のある事象
  - 2. 予測不可能、または非典型的な事象
  - 3. 国際的に拡大する危険性のある事象
  - 4. 国際間交通や流通を制限する危険性のある事象
- 加盟国は、PHEICとなるおそれあり、と評価した場合、24時間以内にWHOに通告義務を持つ。

国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態を構成するおそれのある  
事象の評価及び通告のための決定手続



# 改正国際保健規則(IHR2005)に基づく主な情報の流れ概要図



# どのような対応がWHOに求められているのか



プログラム一元化



従事者一元化



予算一元化



責任の一元化



システムやプロセスの  
統合・一本化



基準の一本化

危機に際して  
人々のために

迅速かつ  
的確に対応し

適応力をもち  
信頼できる

WHO

# お伝えしたいこと

- 様々な機関、団体のひとりひとりが、グローバルヘルスガバナンスの参加者であること。
- あらゆる層の一貫した協力が不可欠であること。
- 神戸センターの役割
  - 日本にある唯一のWHO機関としての情報提供、協力。
  - 地方自治体と協力した有事への備え。
  - 特定の事態への人材提供。

ありがとうございました

---

WHO健康開発総合研究センター

茅野龍馬